

1. 単元名 「異文化理解 “NADYA’S VILLAGE”」

2. 単元設定の理由

- 1986年に旧ソビエト連邦のチェルノブイリ原子力発電所での大爆発火災事故により広島型原子爆弾の500倍とも言われる放射性物質（死の灰）が北半球の広範囲に拡がり、雨により地面にしみ込み、作物や家畜に影響を与え、野菜類、肉類、乳製品などを汚染した。本単元のストーリーの登場人物であるナディア(Nadya)はチェルノブイリ原子力発電所の風下に位置するベラルーシ共和国の小さな美しい農村デュディチに住んでいた。デュディチも他のエリア同様に死の灰の汚染を受けた。

この村には電気製品などはなかったが、人々は楽しく生活していた。村は何一つ変わりなく見えた。村の山も川も変わらず美しく果物や農作物もたわわに実り、生き物も人と共生している。しかしある日突然、この村に住むのは危険だという理由で、政府から村の住民全員に退去命令が出た。そしてこの村は地図上からも消されることとなった。以上が題材の内容である。

原子力発電という先進技術の恩恵とは全く無縁な人々が住み慣れた故郷を追われその故郷も消されるという科学技術の発展の中の非常に皮肉な一面。ただ、このケースだけでなく他にも世界中の一部の人々が受けている科学技術により多くの人々がその被害を被っている例がある。そのような事例の存在を認識することにより、生徒たちの日常生活の中での意識の変革につながることを意図してこの単元を設定した。

- 本学級の生徒は、1年で9単位（英語I、英文法、英会話、LL、異文化理解）、2年で11単位（総合英語、英語表現、異文化理解、LL、英会話）、3年で9単位（総合英語、英語理解、英語表現）の様々な英語学習や、2年次の文化祭での英語劇の発表、スピーチコンテストへの参加、英語検定へのチャレンジなどの諸活動をおしてより高度な4技能の習得を目指している。該当クラスの生徒の約3分の2の生徒は7月から8月にかけてニュージーランドにおけるホームステイ学習プログラムに参加しており、異文化への感受性もあり国際理解への基本的レディネスも比較的高いのでこの題材に対する理解力や考察力も高いと思われる。

- 今回は生徒たちの日常生活に対する見方により変化をもたらすことを目的としている。

本単元では直接取り扱うのは世界の諸問題であるが、究極的には人間に本来必要なメンタリティーを生徒たちに認識させる必要ことを目標とするものである。また「英語で情報や考えなどを伝える能力を一層伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」ことを基本的目標に据え、生徒はALTの協力を得ながら、英語をとおして情報を収集し要約・伝達したり、得た情報を自分の考えを織り交ぜてのプレゼンテーションを行い、教師だけでなく生徒間のエヴァリュエーション（評価・コメント）をも行う。

3. 指導目標

- ① 世界に存在する社会問題を英語で読み理解することで、問題意識の啓発や、ひいては人生観・世界観のとらえかどにより高い関心をもつ。
- ② 本文中の事例と類似した他のケースについての調べ学習を行うことで知識を広げ、上記①の学習から得た問題に対する知識・意識や理解力と思考力をさらに深める。
- ③ 英語と日本語によるプレゼンテーション。グループ・プレゼンテーションへの準備活動の中で各自が問題としてとらえている内容を英語で表現するすべを学び身に付ける。
- ④ グループ・プレゼンテーションとそれに対する評価によりグループ・ワークにおける役割分担と責任の遂行を学ぶ。

4. 指導計画 (全7時間)

- ステップ1 本文を読み内容を理解する 2時間
- ステップ2 本文の内容に基づき関連事項の調べ学習と英語・日本語によるプレゼンテーションの準備 2時間
- ステップ3 プレゼンテーションとエヴァリュエーション 3時間

5. 本時の指導観

- ① プレゼンテーションはパワーポイントによる発表とし、ページは8ページ以上、各ページに英語と日本語による短めのコメントや解説と写真やイラストレーションを入れることとする。
- ② 他のグループの発表をよく聞かせる、そのために1つのプレゼンテーションに対して生徒1人が1枚ずつのエヴァリュエーション・シート (内容書き取り・評価・コメント) 記入と提出を義務付ける。
- ③ エヴァリュエーションのポイントは
 - 1) 調べた内容のクオリティー
 - 2) 説明のわかりやすさ・表現力・説得力
 - 3) 使用している英語の自然さ
 - 4) 音声の聞こえやすさと発音
 - 5) グループとしての手際良さ
 - 6) パワーポイントデータとしての完成度の5項目とし、その配点は 1)=5点, 2)=5点, 3)=2点, 4)=2点, 5) =2点, 6)=4点 の20点満点とする。つまり 1)=25%, 2)=25%, 3)=10%, 4)=10%, 5) =10%, 6)=20% の配点とする。
評価表がグループの成績の一部となり、また個人の書いた評価表の内容自体がその本人の成績の一部となる。
- ④ 授業の進行は英語で行う。もちろん効果的に日本語も使う。

6. 本時の目標 (7時間中5時間目)

- (1) プレゼンテーションされた世界の社会問題や環境問題について関心をもち、その改善(向上)を目指して自主的・積極的・意欲的に取り組む【関心・意欲・態度】
- (2) プレゼンテーションされた世界の社会問題や環境問題についての知識を身に付け、それらへの関わりや状況改善の取り組みでの必要性や意義(役割)を理解する【知識・理解】

7. 教材 生徒：各グループが準備したパワーポイントデータ EVALUATION SHEET (評価表)
ちなみに1・2時間目使用の教科書は「GLOBAL JOURNAL」桐原書店
教師：各グループが準備したパワーポイントデータ EVALUATION SHEET (評価表)
ちなみに1・2時間目使用の教科書は「GLOBAL JOURNAL」桐原書店

8. 本時の学習指導過程

展開	学習活動	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
準備	LL教室(実施教室)に入室したもののから各自パソコンへのログインを行う	すみやかにログインを行わせる。			各自	
導入	①挨拶および出席確認 ②前回の授業(第4時間目)までの流れや学習・作業内容を確認 ③EVALUATION SHEET(評価表)の配付と記入上の解説	出席を確認し、授業の体制を整えさせる。 本時の他のグループの発表の興味を高め、またオーディエンスとしての聞くマナーにも注意を向ける。 事前に説明している評価基準を確認し実際のプレゼンテーションとの関係を若干解説する	評価表	5分	一斉	
展開	第1番目のグループの発表準備 ①第1番目のグループのプレゼンテーション 内容に関するQ&A 発表終了後オーディエンス生徒は評価表の記入を完成する 評価表を提出する	発表グループの代表者にコントロールPCへのログインと生徒の発表用PPTデータの立ち上げを行わせる 発表グループ以外はプレゼンテーションを聞きながらEVALUATION SHEETを記入させる。 第1番目のグループにPPTデータを閉じさせ、コントロールPCからログアウトさせる。次のグループに早めに評価表の記入を終え発表準備をさせる。 評価表記入中に教師によるコメントを述べる	生徒PPT・評価表	20分	各班	(1) (2)
	第2番目のグループの発表準備 ①第2番目のグループのプレゼンテーション 内容に関するQ&A 発表終了後オーディエンス生徒は評価表の記入を完成する 評価表を提出する	発表グループの代表者にコントロールPCへのログインと生徒の発表用PPTデータの立ち上げを行わせる 発表グループ以外はプレゼンテーションを聞きながらEVALUATION SHEETを記入させる。 第2番目のグループにPPTデータを閉じさせ、コントロールPCからログアウトさせる。次のグループに早めに評価表の記入を終え発表準備をさせる。 評価表記入中に教師によるコメントを述べる		20分	各班	(1) (2)
まとめ	授業終了準備:生徒は各自のPCからログオフする	教師は本時のレビューを行い次回の予告を行う。		5分	各班	
評価	(1) プレゼンテーションされた世界の社会問題や環境問題について関心をもち、その改善(向上)を目指して自主的・積極的・意欲的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】 (2) プレゼンテーションされた世界の社会問題や環境問題についての知識を身に付け、それらのへの関わりや状況改善の組み立ての必要性や意義(役割)を理解している。【知識・理解】					